

2017年度 事業報告

基本方針

- (1) 誰もが“自分らしく生きること”を大切にして、地域の中で医療・介護、そして暮らしをつなぎ「より多くの方が安心して住み続けられる地域づくり」をめざします。
- (2) 「おたがいさま」の活動(価値)を広げ、日々の暮らしに、元気、温かさ、安心感が生まれ、広がることをめざします。

1. 2017年度 重点的な活動について

2つの基本方針に基づき、次の活動を進めました。

(1) 誰もが“自分らしく生きること”を大切にして、地域の中で医療・介護・そして暮らしをつなぎ「より多くの方が安心して住み続けられる地域づくり」をめざします。

① 行政・諸団体との協同、連携の活動 (第8回地域ケア連携フォーラム資料参照)

- 「あったか地域づくり協議会」主催の「第8回地域ケア連携推進フォーラム」にて、2016年度からの3グループ、それぞれの運営母体が推進した活動を報告しました。

特に当センターは、Bグループ「なないろ食堂」の事務局としての役割を果たしました。また、放送大学「地域福祉の現状と課題／大阪大学 斉藤弥生教授」の授業に協力しました。(2018年7月9日放送予定。／資料①)

【3グループ活動】

- A. 古志原地区における包括的なケア体制づくり
 - B. 大庭地区における子どもの居場所(なないろ食堂)
 - C. 生きづらさを抱える人々を支える地域づくりと包括的ケア体制(農福連携)
- * 第8回地域ケア連携推進フォーラム資料にて、報告のとおり、今年度の活動を終え、次年度以降も、協議会の活動を継続して行う予定です。



講演：湯浅 誠氏

3グループ報告

第8回フォーラム参加者 220名

なないろ食堂の様子

○松江市地域福祉計画活動推進委員会（2017年3月～）および 松江市社会福祉協議会評議員会（2017年4月～）へ代表が出席し、意見を述べました。

② 出雲地域交流会活動を推進し、地域の方々に呼びかけた企画を行いました。

【企画名】

「みんなでやりましたよや 助け「い」、支え「愛」（2018年2月23日縁結び交流館）

○「安心して暮らせる地域づくり」をめざして、出雲圏域での協同組合と出雲市社協（計8団体）が連携し、各団体事業の紹介や、支えあいへの参加呼びかけを目的に開催し、70名の参加を得ました。新しく助け合いの組織を立ち上げようとする市内の地区社協の参加もあり参考にしたいという声が出されました。

次年度も交流を深め、協同での取り組みを進めていきます。

*協同団体

正会員（ひかわ医療・出雲医療・生協しまね・おたがいさまいずも・JAしまね斐川地区本部・JAしまね本店・地域つながりセンター）

他団体（出雲市社協・グリーンコープ） オブザーバー（島根県生協連）



③ 正会員団体での協同について

○正会員団体において、総代会や職員全体会で、活動紹介などを行いました。また、職員新人研修の要請を受け行いました。



職員新人研修の様子



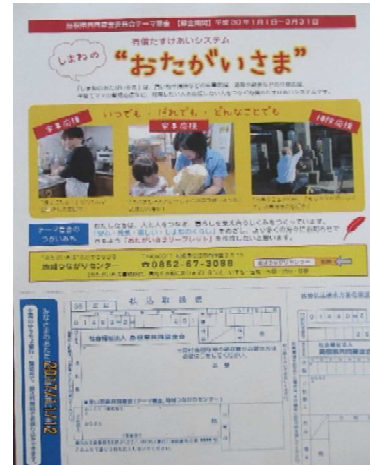
生協しまね職員全体会

○正会員団体と、各「おたがいさま」が協力し「赤い羽根共同募金テーマ募金」活動を実施しました。

正会員団体および賛助団体や個人など、多くの方々（85 個人・団体）に「おたがいさま」「地域つながりセンター」を周知して頂く機会になり、さらに次年度に向けて、つながりをより深めるきっかけを作ることができました。

募金総額 660,461 円

（決定助成額 595,000 円⇒2018 年度助成へ）



○正会員、およびグリーンコープや労福協の参加も得、より多くの諸団体の連携と協同により「フードバンク」の立ち上げが行われ、当センターもその準備に関わりました。次年度のモデル的な実施に向けて参加団体をさらに増やしなが、具体的に準備を進めていきます。



フードバンク立ち上げ準備の話し合い



フードバンク山梨 視察

④ 幹事会・常任幹事会を通して、情報交流の機会を大切にしました。

(2)「おたがいさま」の活動(価値)を広げ、日々の暮らしに、元気、温かさ、安心感が生まれ、広がることをめざします。

① おたがいさまの運営支援を引き続き行いました。

○三者会運営(年間11回実施)を行いました。

*三者会メンバー

生協しまね・おたがいさま6団体
地域つながりセンター

*冬場は、特にスカイプの活用



全おたがいさま 事務局交流会の様子

○教育・研修・交流・活動支援を下記のとおり行いました。

- * 第5回おたがいさま研修交流会
(11月17日～18日/宿泊:温泉津温泉)
- * 西部交流会(6月6日)
- * 東部CO交流会(6月21日)
- * 事務局交流会(9月20日)



講師: 邑南町 堀田優子さん



第5回全体研修交流会の様子



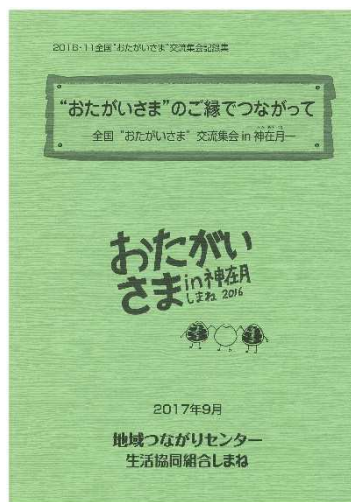
② おたがいさまの活動を記録し、地域に広げる活動を行いました。

○事例冊子作成と配布・・・「世の中 捨てたもんじゃない」～第3集～

- * 大田市地域包括支援センターの寄稿事例を掲載しました。

○2016年度「全国おたがいさま交流集会」記録集を発行(9月発行)し、研修資料としても頒佈にて提供しています。

- * 生協しまねと共同で作成。
編集会議(2017年3月～6月)を経て発行。



③ 島根県赤い羽根共同募金の活動を申請し、1月から3月まで募金活動をしました。

④ 「おたがいさま(地域つながりセンター含む)」についての研修来訪及び、講師活動の要請など、県内・県外の計15団体への対応を行いました。

【来訪団体 10団体】

- ・奈良県社会福祉法人 「協同福祉会」
- ・栃木県生協連
- ・韓国 農漁民新聞社
- ・コープしが
- ・全国社会福祉協議会
- ・岡山県浅口市市民児協
- ・香川県生協連
- ・長野県生協連
- ・日本生協連
- ・韓国 関東大学



岡山県 鴨方民児協



香川県生協連



全国社会福祉協議会



韓国 農漁民新聞社



韓国・関東大学

【報告および講師依頼...5団体】

- ・協同組合学会 講演（JC総研） ・青森県連 ・日本生協連（部会での報告）
- ・コープやまぐち「おたがいさま下関&周南 交流会」
- ・県社協「子育て・子育て拠点推進フォーラム」なないろ食堂の報告



青森県連での講師



県社協フォーラム 報告

【他機関発行物での紹介】

- ① 全社協の取材を受け、全国ボランティア情報誌 10月号
特集「生活協同組合が進める地域・ボランティア活動」での紹介（資料②）
- ② 「共済と保険／2017年9月号／発行 一般社団法人 日本共済協会」
「日本協同組合学会春季研究大会報告」（資料③）

2. センター機能の整備をしました

（1）広報について

○ホームページの更新、活用等、ボランティアの力を借りて行いましたが、さらにタイムリーな情報提供や会報等の閲覧も出来るようなこまめな更新が必要です。

(賛助会員募集や各購入案内、企画の参加呼びかけ、トピックス情報等)
○会報／第6号(6月発行)・第7号(2018年1月発行)の発行と配布

- (2) 賛助会員については、総会報告を兼ねた会報の送付時に、継続の呼びかけを行いました。個人会員については増加し、団体会員については年々減少しています。広報の機会を通じた呼びかけやその他、工夫が必要です。

○正会員 (11 団体／186 万円)

○賛助会員 (賛助会費／計 551,895 円)

【団体 15 団体／26 万円】

島根県生活協同組合連合会・大学前のつ内科クリニック・(有) 永和グループ・はらガス産業株式会社・島根県厚生農業協同組合連合会・一般社団法人島根県農協電算センター・生活協同組合コープかがわ・株式会社イトハラ水産・島根県中央酪農農業組合連合会・株式会社トキワ・松江土建株式会社・マルイ食品株式会社・株式会社 JA アグリ島根・生協しまね虹の会・JA しまね西いわみ地区本部/順不同

【個人 67 名／291,895 円】

- (3) 助成金申請を行いました。

○コープ共済連(ささえあい助成)の申請と助成

○島根県赤い羽根共同募金会「テーマ募金」申請と募金活動

- (4) 講師要請、研修来訪への対応を行いました。

○協同組合等による、地域でのつながりとその活動への関心が高まっています。また、韓国の関東大学は、インターネットで当センターの活動を知り申込みをされました。(韓国からは、昨年度から続けて 3 団体の来訪となりました)

- (5) センター事務局体制は引き続き前年度と同様の体制で行いました。

○スタッフ体制について

スタッフ 7 名 サポーター 2 名 ボランティア 3 名

以上